

大阪 ~ 下関 瀬戸内サイク

1985年 12月 28日, 29日, 30日, 31日

1986年 1月 1日, 2日, 3日, 4日

7泊8日

費用 約 3,000-

走行距離 620km

12月28日

前橋^{電車} ~ 大阪 ~ 神戸
(神戸水YH)

29日 神戸 ~ 岡山
(岡山青年会館YH)

30日 岡山・倉敷 散歩
(岡山青年会館YH)

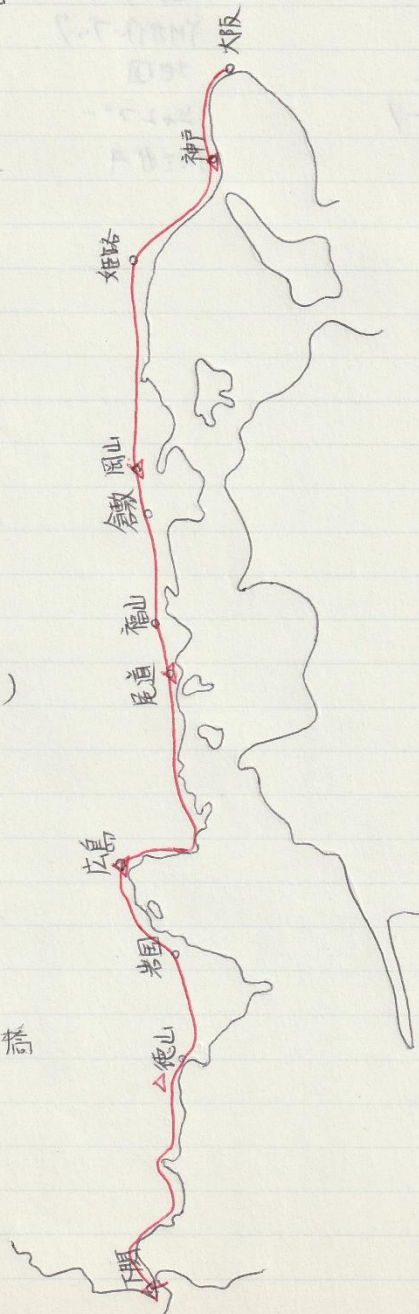
31日 岡山 ~ 尾道
(尾道友愛山荘YH)

1月1日 尾道 ~ 広島
(広島YH)

2日 広島 ~ 徳山
(湯野温泉YH)

3日 徳山 ~ 下関
(下関火の山YH)

4日 下関 ~ 門司・小倉 ~ 前橋
電車



 ** チャリンコ旅日記 No.8 **
 ** Resistance Of My Mind 19910715 **

【 1985年12/28日 から 1/3日 大阪市 から 下関市 620Km 】

【 12月28日(土) 】 快晴 走行距離 60Km
 (電車) 新前橋駅 → 東京 → 新大阪駅 走行時間 4時間9分
 (自転車) 大阪 → 神戸

4:20	新前橋駅 着	12:01	新大阪駅 出る
5:12	出る ¥13100-	30	野田阪神駅
7:20	上野駅 着	35	淀川
8:12	東京駅 出る	14:10	休み
	ひかり103号 博多行き	33	出る
11:20	新大阪駅 着	15:00	神戸駅
		50	舞子浜
		16:10	垂水YH 着 ¥2100-

何時もの事で、旅の始まりは不安でいっぱいだ。このまま布団の中で寝ていたい。1分2分と布団の中に居座り続け、最後には意を決して旅の仕度をする。

早朝4時、冷たく深く暗い空でオリオン座は西に傾き春の星座が昇っている。父に送られる車の中で、私だけが自分かってに遊び回っている事が申し訳ない様に思える。25歳の私の年齢の時、父はすでに結婚して子どもが一人いた。こんな事をしている自分が情けなく思える。

新前橋駅は、シャッターが降ろされひっそりと静まり返っている。冷たいベンチに腰掛けて静かな時を過ごす。時折、風にあおられてシャッターがガタガタ音を立てている。まるで、不安にふるえおののく私の心の様だ。不安だと思いつつも、何故か、旅立つ私。

今回の旅には、尾道、倉敷に行ってみたいという気持ちがありました。特に、尾道には行ってみなかった。

【12月29日(日)】 晴/曇り

走行距離 120Km

神戸垂水 → 姫路市 → 岡山市

走行時間 7時間55分

8:10	神戸垂水YH	出る	12:05	休み	昼食 ¥730-
23	明石駅		43	出る	
52	清水	休み		曇り出す	
56		出る	13:12	船坂峠	小雨
9:26	加古川		45	伊部駅	ジュース ¥100-
10:16	姫路城		53	出る	曇り
40		出る	15:00	岡山城	フィルム ¥1000-
11:38	相生駅		20	出る	
41		出る	16:05	岡山県青年会館YH	着
					¥2950-

神戸垂水YHでは2人の外人と知り合った。一人は、オーストラリアのラルフ君、もう一人はドイツのスザンナさん。下手な英語で昨夜は、少し話をした。

朝、起床の放送で目覚めると波の音が聞こえてきた。YHのすぐ前が海。日の出をカメラに収める。昨夜から風邪を引いてしまっているラルフを見るなり、Good morning. How are you? と話しかける。彼は、「元気」だと日本語で答ながら咳をしていた。

朝食後、彼らに別れを告げ本日の宿泊地、岡山県青年会館YHに着いたのは16時。岡山市内で、慣れない為か路面電車にぶつかりそうになるが、無事にYHに到着。ここでも、二人の外人に出会う。でも今日は、話をしなかった。日本の人と話をしたりトランプをして過ごしていた。

1月1日に広島YHに宿泊したときは、外人の多さに驚いた。日本人だと思って話しかけたら外人。香港の女性だったりした。翌朝、食事前に外人女性になぜか捕まって、その人と訳のわからない英語で30分程話をしてしたが、さっぱり理解できなかった。彼女は英語の先生で、私の英語が大変に下手なのを見かねて、相手をしてくれた様でした。

【12月30日(月)】 雨

一日中雨降り。走る事を諦めて、岡山のYHに連泊する。朝、YHの掃除を手伝ってから11時頃電車で倉敷市へ行く。雨の倉敷。運河沿いに建ち並ぶアンティークな店先で、綺麗なガラス細工が、窓越しにきらめいている様は、私の心を幼い日の郷愁に誘う。

【12月31日(火)】 曇り/晴

走行距離 85 Km

岡山市 → 倉敷市 → 尾道市

走行時間 6時間50分

9:30	岡山YH	出る	13:00		出る
10:02		休み	35		松永駅
05		出る	14:05	尾道駅	とんかつ定食
10:20	倉敷駅			浜吉食堂	¥850-
50	高梁川		30		出る
11:10	金光トンネル			尾道散策	渡船 ¥130-
45	笠岡駅	かつ、ピコル、川ガミ	16:05	展望台	コーヒー ¥100-
		にわか雨 ¥428-	20	友愛山荘YH	着
12:00		出る			¥2950-
45	福山駅				

私にとって心に残る素敵な映画が、何本かある。

探検家の植村直巳が遭難して2年後に上映された「植村直巳物語」。封切り日の最初から見て、4、5回は毎週のように映画館に通った。ビール片手に、ある場面になると涙を浮かべながら見ていた。そしていつのまにか眠ってしまっていた。

金子と夜、飲みに出かけた帰りに見た「ロッキー4」。酔っぱらっていて、ほとんど眠っていたけど、オールナイトで見る映画も素敵な物で、レンタルビデオでロッキー1～3まで借りて、家で夜中に見ていた。でも、去年上映された「ロッキー5」は、しかたなく制作した感じで面白くない。

60年春上映された「さびしんぼう」。ショパンの練習曲「別れの曲」をアレンジした主題歌は、なぜか尾道の夕景にマッチして、私の恋心をあまずつぱく刺激するす物があつた。

午後2時頃、尾道駅に到着した私は、駅の観光センターで「尾道ロケ地案内図」をもらい、さびしんぼうを求めて、尾道の散策に出かけた。映画で出た福本渡船で、尾道水道の向こう側の町へ行ったり、複雑な迷路の様な坂の小路を自転車を担いで歩いたりした。島と島に掛かる赤い橋。山肌のみかん畑。海辺にはひなびた造船所が立ち並ぶ。すっかりこの町の人になった様な気持ちだ。

さびしんぼうを制作した大林宣彦監督は、尾道を舞台とした作品を好んで制作している。中でも、小林聡美主演の「転校生」、原田知世主演の「時をかける少女」、富田靖子主演の「さびしんぼう」は、尾道三部作として有名です。

不思議な街尾道。遠い日の思い出を思い出させる様な街。尾道市の山の上にある千光寺公園に登り、展望台の上から尾道水道のずっと向こうの瀬戸内海に沈む夕陽を眺めていた。海を渡る風は、私の存在を無視するかのように冷たく吹き抜けて行く。夕暮れの尾道をカメラに収めながら、「とてもこの景色を見たまに記録しておくことは、出来そうもない。せめて、この目で心に焼き付けておこう。」と思って、しばらく、眺めていた。

夜、二年参りの帰りに大林監督が良く立ち寄る店「トム」へ寄ってみたが、混んでいたのですぐにYHに戻って寝てしまった。

翌朝、昭和61年の幕開けを展望台より待ち望んでいたが、予定時刻を30分過ぎても太陽は現れなかった。

【1月1日(水)】 曇り/晴 走行距離 120Km
尾道市 → 竹原市 → 広島市 走行時間 7時間38分

6:40	起床 紅茶 ¥100-	11:54	休み
7:00-45	展望台で初日の出を待つ	58	出る
9:12	尾道YH 出る	12:17	安浦町
22	尾道駅	27	安登駅 休み
54	三原市内	30	出る
10:00	R185,R2 交差点	13:30	呉駅
05	出る 小雪舞う	35	セブンイレブン
41	忠海駅	53	出る 昼食 ¥420-
46	出る	15:06	休み ショップ ¥345-
11:12	竹原市 パン ¥170-	10	出る
19	出る	20	広島駅 広島散策
47	安芸津町	16:50	広島YH 着 ¥2710-

今日太陽を見たのは、10時過ぎ。しかし、白い太陽が弱々しく、今にも消えそうに俺を見つめている。一日中とても寒かった。

尾道を出て、三原市のR185とR2の交差点で、近道71Kmにするか、海岸通りの100Kmを選ぶか迷っていた。空はどんより曇、寒い。走っていても汗をかかない。交差点で迷っていたら、小雪がちらつき出した。風邪でも引くのではないかと、くじけそうな気持ちになるが、敢えて苦しい方の道を選んだ。夕方5時位には到着するだろう。

元旦は、開いている店があまりない。途中の開いていた店でパンを買い込んで、バックに入れて置く。これで安心。ジュースは自動販売機で手に入るが、食べ物はどうはいかない。

走っていて心励まされるのは、道路標識の距離が減っていくこと。そして、オートバイや車の人の声援。造船の町呉市に入って安心する。広島まであと少し。セブンイレブンでお弁当を買って、ガード下で食事にする。

広島駅に着いてから、寒さにふるえながら原爆ドームを見学する。

【1月2日(木)】 雪/晴

広島市 → 岩国市 → 新南陽市

走行距離 115 Km

走行時間 8時間20分

8:40	YH 出る 降雪	12:55	岩国
51	広島市役所	13:12	錦帯橋 フィルム ¥850-
9:00	リヤディレイ故障 修理	33	出る カット ¥600-
05	出る	58	R2分岐
50	休み セーター着る	14:53	風雪
55	出る	15:39	末武中
10:09	廿日市駅	16:38	戸田駅
25	宮島口 渡船 ¥500-	43	出る
	参拝 ¥1200-	17:00	YH 着 ¥2100-
12:00	出る		風呂、食料 ¥1070-

朝、放送で目覚めて外を見たら、うっすらと雪化粧。出発前に記念写真を撮って出発。すぐに自転車の故障に気が付く。リヤディレイラのナットが付いていない。これが無いと、走れなくなる。とりあえず、自転車の中で走行に支障のないナットを外して取り付けた。

原爆ドームを再び訪れ、平和を祈る。太陽は出ていたが、死の灰ならぬ小雪がちらついていた。風が強く、寒くてたまらない。途中で、セーターを着て走る。昨日の寒さで風邪を引いた様だ。

安芸の宮島に10時過ぎに到着。船で渡って観光を楽しむ。神社には、鹿が沢山いた。12時にまた走り出す。岩国には13時に着き錦帯橋で昼食にする。ここには、時代劇に出てきそうな凄い橋が川に掛かっている。川向こうの崖の上には、岩国城が見えている。結構、観光客が多い。

夕方3時頃、自転車で走っていて、手足が冷たい。西の空が大きな黒雲で覆われたとたん、雪が舞い始め、30分近く降り続けた。

今日の宿泊地、湯野温泉は小さな温泉街で、銭湯の周囲に民家が集まった様な所だった。

【1月3日(金)】 晴/曇り

走行距離 120Km

新南陽市 → 小郡市 → 下関市

走行時間 6時間53分

6:30	起床	11:15	宇部市役所
8:07	YH 出る	42	小野田市
50	防府第三トンネル 1833m	52	休み
52	休み	54	出る
55	出る	12:07	セーター脱ぐ
9:25	台道 休み	10	出る
30	出る	16	上市交差点
50	小郡	13:20	関門橋の下
10:12	井関 食事 ¥800-	40	下関駅 昼食 ¥750-
33	出る	15:03	火の山ロープウェイ ¥700-
58	宇部空港入り口	16:10	YH 着 ¥2600-

朝、自転車に霜が降りていた。どうりで寒いわけだ。今日は最後の走りの日。午前中は薄曇りで寒かったが昼頃になると、海を隔てて関門橋が見え始め春の様な陽気になってきた。海の向こうに見えていた下関に到着したのは午後2時。駅前のレストランで昼食にして、YHに電話予約をする。YHに着いてから荷物を預けて火の山に散歩に出かける。

関門橋の下の海を、壇ノ浦と言う。壇ノ浦の戦いは、聞き知っていたが、場所については知らなかった。初めて訪れた壇ノ浦。

1185年、平知盛と源義経が、この地で合戦。平家の2位の尼が安徳幼帝を抱いて入水自殺をして、平家は滅亡した。今でも、壇ノ浦を望む赤間神宮に安徳天皇は奉られている。遠き日の平家滅亡を思いながら、火の山より、壇ノ浦を眺めていた。この地には、かつて武蔵と小次郎がデートをしたという巖流島もあった。そして、日本をこよなく愛した小泉八雲の物語、「耳無し芳一」の舞台もこの地である。

知らずに訪れた歴史の舞台。遠い昔が身近に感じられる様な、自転車の旅でした。

【1月4日(土)】曇り/晴

走行距離 0Km

下関市 → 門司駅 →

走行時間 0分

→ 小倉駅 → 東京駅 → 高崎駅 → 前橋駅

8:20	下関火の山YH 出る	10:13	小倉駅 出る ¥8900-
25	関門トンネル人道入り口 パンク		ひかり4号 160%乗車率
42	門司 自転車分解	16:16	東京駅 着
9:10	門司港駅 タクシー ¥580-	56	上野駅 出る あさひ363号
35	小倉駅 電車 ¥9800-	17:44	高崎駅 着 食事 ¥700-
		18:35	自宅 着 タクシー ¥1110-

昨日の天気予報で、今日は雪か雨。見たくない会社の夢を見るのが嫌で無理に夢を中断して目を開けた。7時20分前だった。外はまだ暗い。風邪で鼻がつまり、喉もおかしい。

今日は、旅の最終日。テレビのニュースを見ながら、大阪から下関までの行程を振り返る。あっと言う間の出来事だった。しかし、毎日苦しんで勝ち得た道のりだ。外は風が強く、曇っている。紅茶を飲みながら、新聞を眺めている。

8時過ぎにYHを出て、関門海峡を渡る。北九州の門司。ここで、自転車を分解してタクシーで門司港駅へ向かう。門司から小倉へ出て、乗った新幹線は、乗車率160%だという。これから7時間、この電車に乗っていかなくてはならない。岡山駅から私は、座席に座る事が出来たが、まだ込んでいる。

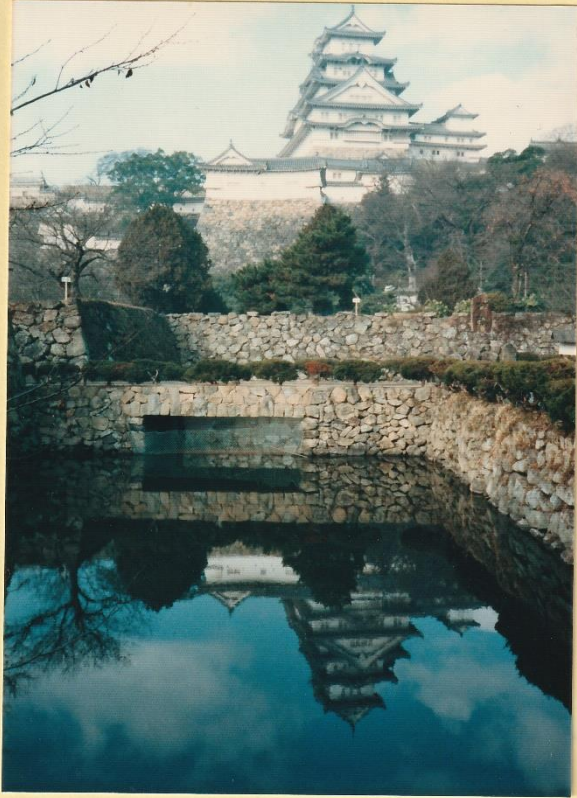
7時間程で東京駅に着き、夕方7時前には前橋の自宅まで戻ってきていた。



1985/12/29 神戸垂水 「夜明け」



1985/12/28 神戸垂水 「夕焼け」



姫路城

1985/12/29





岡山城

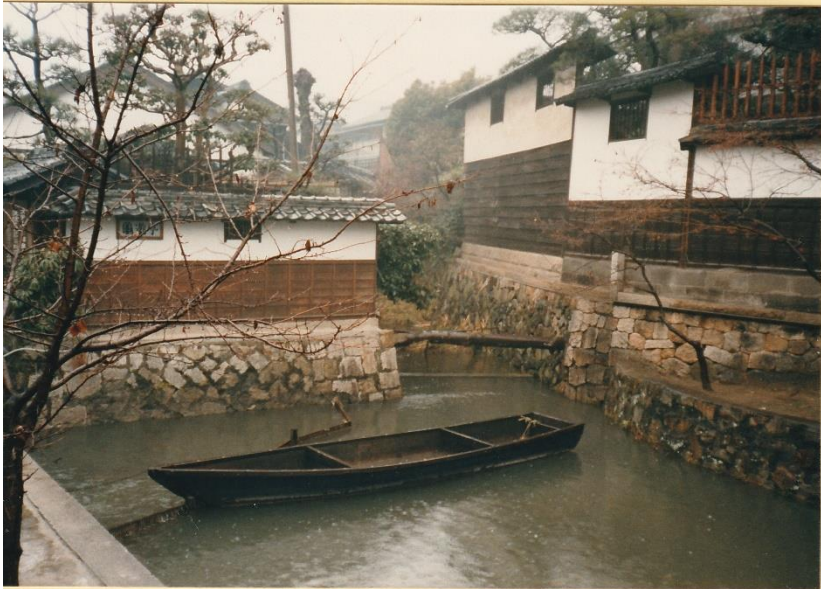
1229



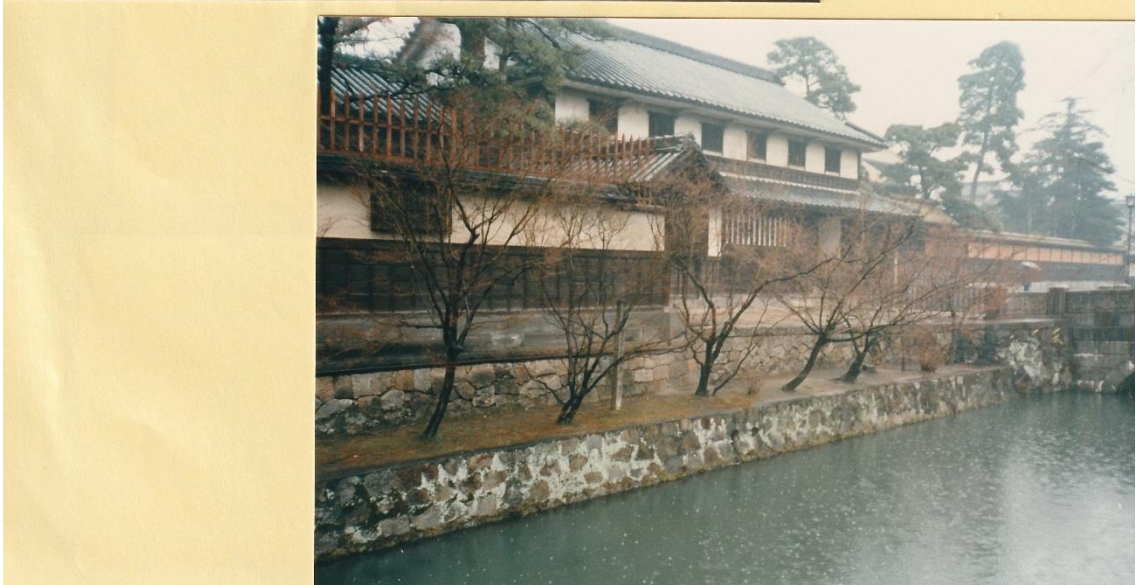
1231
岡山YH
出立



1230
「倉敷駅」



1230
「雨の倉敷」





「アビ-スクエア」



1230「雨の倉敷」

「考古館」



「民芸品店」

1985/231

尾道
「展望台」



1231

「尾道大橋」

「尾道水道」





1231

尾道

「福島渡船」

(映画せいしんぼうの渡船)



19860101

「夜明けの尾道」



1231

「尾道夕景」

19860102
広島YH



0102
原爆ドーム

0102
広島城



平和の祈り





0102
「安芸の宮島」



0102
「宮島渡船」

厳島神社は市杵島姫命、田心姫命、湍姫命を祀っている。
 御社殿の創建は推古天皇元年（五九三年）現在の規模は約八百年前に平清盛の造営したもの。
 丹塗松皮葺の变化に富む建物が蒼い海を前に、翠の山を背にした景観は誠に美しい。
 この島は昔から神として崇められていたため、御社殿を海水のさしひきする所に建てたといわれている。
 ここには幾多の史跡や伝説があり、神事や祭典が数百年來絶えることなく伝わっている。
 この神社に寄進された宝物は数も多く、年中その一部を宝物館に陳列している。

0102
糸錦帯橋



0103
関門橋



0104
門司港駅
(九州)



0103

関門橋

下関市



転校生



小林聡美 「尾道ロケの思い出」

16才の夏、私は尾道と出会いました。初めての土地だというのに、そこは懐かしさでいっぱい風景でした。
踏み切りの信号の音がとても印象的でした。東京でその音を聞くと、タイムスリップしてあの夏へ戻ってしまいそうな気がします。海と坂道と信号の音。愛しい土地です。
尾道で過ごした1ヶ月は、素敵な夢のようでした。その思い出は、これからもずっと大切にしていきたい、私の宝物です。



キャスト

斉藤 一夫……尾美 としのり	高橋 ます乃	女子学生B……秋田 真 貴
斉藤 一夫……小林 聡 美	金子 正昭……岩本 宗 規	” C……石橋 小百合
斉藤 明夫……佐藤 麻 衣	佐久井健治……大山 大 介	” D……伊藤 美穂子
斉藤 直子……樹木 希 林	福田 静男……斎藤 幸 弘	校長先生……加藤 春 哉
斉藤 孝道……奥 戸 健 一	川原 敬子……林 暎 子	チンピラ……鶴志田 和 忍
斉藤 千恵……入 江 若 葉	吉野アケミ……林 優 枝	団体客の幹事……鶴 田 忍
斉藤 良行……中川 勝 彦	山本 弘……山中 康 二	旅館の番頭……人見 さよし
斉藤 次郎……井 上 浩 一	女子学生A……早乙女 朋 子	大野 光子……志徳美 悦 子

時をかける少女



原田知世 「尾道でのエピソード」

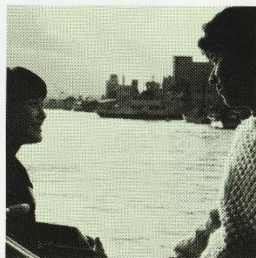
1983年3月 竹原ロケを終り 尾道入りした知世ちゃんは こう語っています。
「私が育った長崎に似ています。
だって尾道は海と山と坂の街という感じで…」と。
この映画のロケの時 彼女は海辺の住吉神社前のRホテルに宿泊してて朝、ロケ出発の時珍しく一寸と遅れ気味の知世ちゃんは 皆に早く早くなどと急がされて やっと とび乗ったロケバスで
何と彼女はホテルのスリッパのままだったとか…



キャスト

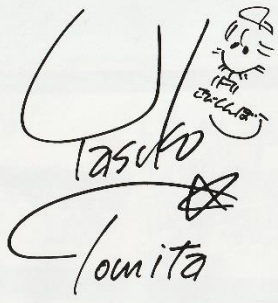
芳山 和子……原田 知 世	芳山 良子(7才)……山下 陽 子	生徒 C……内藤 研
深町 一夫……高柳 良 一	(18才)……岡 寛 恵	幼年時代の和子(5才)……新井 瑞
堀川 昌朗……尾美 としのり	堀川 貞子……さくらあきこ	” (3才)……新井 雅
神田真理子……津田 ゆかり	竹尾 原道……升 元 泰 造	” 一夫……平野仙丈
加島 利男……岸 部 一 徳	時計屋の男……高林陽一(友情出演)	” 吾郎……加藤岳史
立花 尚子……根岸 季 衣	喪服の女……明日香 いづみ	深町正治……原 謙(特別出演)
芳山 哲夫……内藤 誠(友情出演)	生徒 A……小 河 麻衣子	” たつ……入江たか子(特別出演)
芳山 紀子……入 江 若 葉	” B……石 井 さよみ	

さびしんぼう



富田靖子 「尾道の思い出」

海があって 山があって お寺があって
私の 天草のおじいちゃんのところ似ている町。
お魚が とっても おいしい町。
気持ちがいい ゆったりとできる町。
さびしんぼうの 尾道……
こんなに たくさんの思い出が 出来ました。
でも なによりうれしかったことは、エキストラのみなさんが、本当に寒い中がんばって下さったこと、そして、尾道のみなさんの あたたかい人がらです。ステキな思い出を たくさん ありがとうございます。



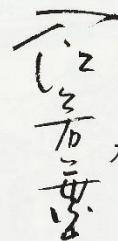
キャスト

田中タツコ……富田 靖 子	井上 フキ……浦 辺 子	雨野テルエ……樹木 希 林
井上ヒロキ……尾美 としのり	田川マコト……砂 川 真 吾	雨野ユキミ……小林 聡 美
井上タツ子……藤 田 弓 子	久保カズオ……大 山 大 介	藤 百合子……富田 靖 子
井上 道子……小 林 聡 美	木島マスコ……林 優 枝	(二役)
吉田 徹……岸 部 一 徳	魚屋の店員……崎 澄 子	
大村カズコ……秋 川 リ サ	マコトの母……根 岸 季 衣	
P.T.A会長……入 江 若 葉	カズオの母……明 日 香 尚	
校長・岡本……佐 藤 允	カズオの父……峰 岸 徹	

尾美としのり 「ぼくと尾道」



海・山・坂道・人間が全て
素敵な尾道。実は僕は海と山が嫌いで、魚が嫌いなのです。でも、尾道は、何度来ても、もう一度来たいなると思っています。
撮影では色々つくって大変な事もありましたが、今では楽しい思い出いっぱいあります。今度は、遊びに行きたいと思っています。



入江若葉 「おのみち」

尾道に、素敵な思い出を沢山つくってくれたのは……
”転校生。
そして、尾道を大好きにしてくれたのは……”時をかける少女。
尾道に降りた時、なんだか帰って来た様な気がしたのは……”さびしんぼう。
大林監督！ 尾道の”出逢い。を下さってとても幸せに思っています。



